

## 臨床研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学（病院）では、研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施しています。

患者さん又は患者さんの代理の方が、この研究のために患者さん本人の試料・情報を使用・提供されることにご了承いただけない場合は、問合せ先までご連絡ください。

研究課題名	集中治療室での循環器疾患患者の離床に向けての実態調査
研究機関名	金沢医科大学病院
研究責任者	金沢医科大学病院 看護部 長尾 奈美
研究期間	倫理審査委員会承認後～2018年10月31日
対象者	2016年6月～2017年12月までの間に、当院ハートセンターで入院・治療を受けられた方
当該研究の意義・目的	<p>欧米では early mobilization（早期運動）とは、座位、立位、歩行運動をさしており、2日から5日以内に行われる身体活動とされています。「集中治療における早期リハビリテーション～根拠に基づくエキスパートコンセンサス～」においても、早期運動は疾患の新規発生、手術または急性増悪から48時間以内に開始し、その後2～3週間かけて強化することを推奨しています。また、日本における離床の定義はベッド上での座位やROM、端座位は含まれておらず、ベッドから離れての立位、車椅子座位、歩行を示しています。</p> <p>当院の集中治療室では、2016年6月から看護の現状をナースセンシティブクオリティインディケータ（Nurse Sensitive Quality Indicator：NSQI）を用いて、入室患者が端座位をとれるようになるまでの日数を月ごとに調査し数値化した取り組みを行っています。端座位はエキスパートコンセンサスでは離床の範疇に含まれていませんが、端座位は立位、歩行を行う上で必要となる脊柱起立筋群、大腿筋、ハムストリング、腓腹筋といった抗重力筋を使用しその筋力低下を予防できます。端位保持ができなければ、次のステップアップができないため、当院の集中治療室では端座位の実施が基点と考えその有無を評価することを重点としてきました。2016年6月から2017年12月までの循環器疾患の対象となった患者は362人で、そのうち48時間以内に端座位をとれた人数は138人（38%）、48時間を超えて端座位をとれた人数は224人（62%）でした。この結果から入室患者の約半数以上が、エキスパートコンセンサスで推奨されているリハビリ開始時間より遅延していることが判明しました。</p> <p>そこで今回、医師による安静拡大やリハビリの指示のもとで、入室後48時間以内に端座位を実施した群と未実施群の2群間に分けて、早期離床開始に影響を及ぼす阻害因子の検討を行うことを本研究の目的として実施いたします。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	この研究のために、患者さんに新たな検査や費用が追加されることは一切ありません。今回の研究により、上記期間中に得られた端座位実施期間・人工呼吸器・体外循環の装着の有無を本研究のために使用させていただきます。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。
外部への資料・情報の提供	外部への提供はありません。
個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。

資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
問合せ先	その他、この研究に関するお問合わせは、下記へご連絡ください。 金沢医科大学病院 ハートセンター 長尾 奈美 住所：石川県河北郡内灘町大学1-1 ☎：(代表) 076-286-3511 (2211) 内線 (4201)

作成日： 2018年5月25日